

令和6年度 学校評価表

品川区立浜川中学校

校長 小野 智

浜川中学校校区教育協働委員会

委員長 杉山 直道

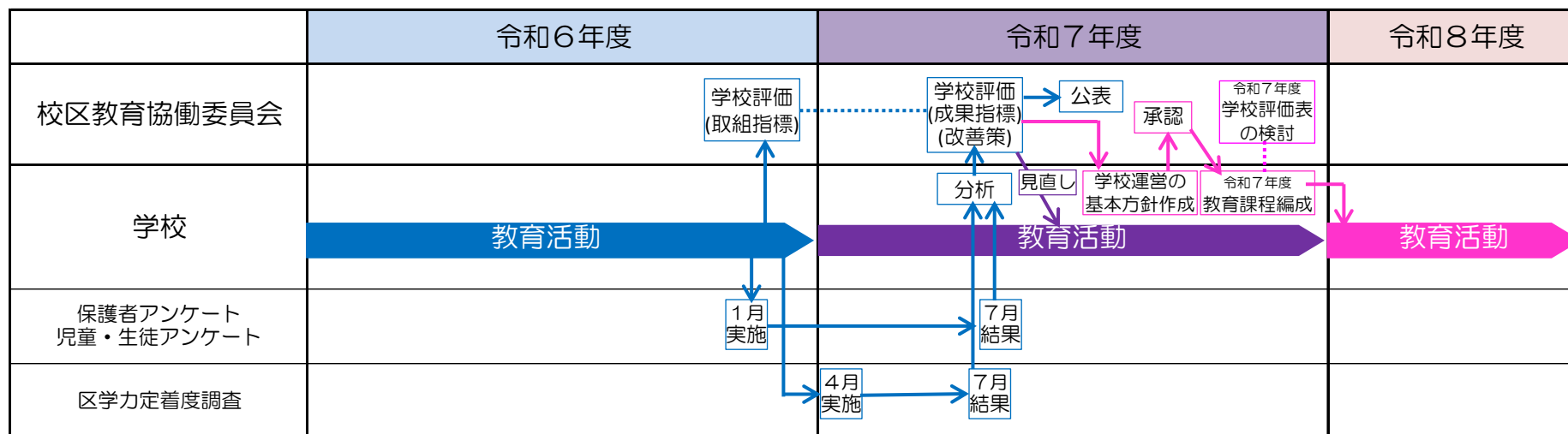
校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。

学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和6年度の学校評価が令和7年度および令和8年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標		◎新学習指導要領を見据え、授業改善に取り組み、学力向上を図る。 ①各教科、領域において言語活動を充実させ、読解力の育成に重点を置いて指導する。 ①基礎的な知識、技能習得のため、個に応じた指導の充実と放課後、長期休業中の学力補充を活発化する。 ①ICT機器を授業等で効果的に活用し、主体的に取り組もうとする学習意欲の向上を図る。 ②読書活動や作文、発表活動を活発化させ、学力の基礎となる語彙力の向上を図る。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査等経年変化を考察し、前年度の結果より向上させる。区学力定着度調査については各教科の区平均正答率を上回る。	どの学年も全国の平均正答率を上回る教科が多かったが、品川区の平均正答率は下回る教科が多かった。生徒の実態に合わせ、計算、漢字、英単語など基礎を繰り返し学習し、基礎を徹底させることに力を入れることが必要である。	B	<今後の課題>品川区学力定着度調査の結果、7年は英語以外区の平均を下回った。8年は、国語、社会、9年は、国語、理科が下回っているため、授業改善を行い、区の平均を上回る学力をつける。 <改善策>各教科、授業改善を進めるとともにICT機器の活用や対話的学びの充実を行うことで、生徒の興味関心を高め授業意欲を向上させる。 ※区学力定着度調査別紙資料参照
	ICT機器(電子黒板、タブレット端末)の活用や活動型の学習展開などを工夫し、主体的、協働的に学び思考力・判断力・表現力を育成するための授業づくりに取り組む。	ほとんどの授業でICT機器を使用し、授業を行っている。ロイロノートに声を録音して自分が発する英語の発音を聞いたり、国語では共有ノートを活用して級友の意見や作成したカードなどを組み合わせたグループワークを行う等、様々な場面でタブレット端末を活用できた。	B	
	英数で実施する少人数習熟度別授業の他、放課後や長期休業中に行う学力補充活動など、個に応じた指導を充実させる。	英語は教員の欠員により2学期以降は少人数授業を実施できなかったが、数学では習熟度別少人数授業を行い、成果をあげている。夏休みの補習教室や、放課後の補習教室、英検教室など、地域支援本部の助けを得て、個に応じた指導ができた。	C	
②	読書活動については、学校図書館活用による年間貸出し冊数3500冊以上を目標に活性化させる。各種検定試験については、卒業期までに3級以上の取得を目標に達成率を向上させる。(全体の25%程度)	今年度の学校全体の貸出冊数は3385冊で、生徒の貸出冊数は1303冊(昨年度1107冊)であった。 英検、漢検、数検の取得率は、全体で20%(昨年度は、40%)	C	<今後の課題>スマホやタブレットの常用により、本を読む習慣が薄れ、語彙力も低下している。 <改善策>図書室を今以上に整備し、利用やすくする。図書館司書と連携した取り組みを充実させ、気軽に利用できる場所とする。
	全校でビブリオバトルを実施するなどの啓発活動を活発化する。また、各種検定試験もCS活動の協力を得ながら、事前指導を行い、計画的に実施する。	各学年において読書活動推進を行った。(7・8年→POPコンテスト 9年→ビブリオバトル) 各種検定についてはコーディネーターの協力のもと放課後学習会を実施してもらい、検定当日の運営についてもお任せした。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		◎多様性を認め合い、多様な人々と交流し、豊かな人間関係を築くことができる生徒を育成する。 ①社会のルールやマナーを守ることができる規律性や規範意識を育成する。 ②あらゆる場面で相手の話をしっかり聞く態度、自分の考えをはっきり伝える態度の育成に力を入れる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	アンケートで「あいさつをする」「正しい言葉遣いをする」の項目について8割以上の生徒が肯定的に評価している。	あいさつについて91%、言葉遣いについて81%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	<今後の課題>一定以上の達成状況ではあるが、さらなる向上を目指す。 <改善策>あいさつの意義を繰り返し伝え、自らあいさつができる生徒を増やす。生活委員会や生徒会本部によるキャンペーンをさらに充実させる。引き続き、教員によるあいさつの率先と一貫した言葉遣いの指導を行う。
	あいさつ運動を活性化させるとともに場に合った適切な言葉づかいを行う。教師自ら、手本となるように意識しながら指導する。	生活委員・教員による週番活動や生徒会本部による登下校のあいさつ運動、教員のあいさつの率先を実施した。また、学校生活のあらゆる場面において言葉遣いの指導を行った。	A	
②	「規則を守る」「時間や約束を守る」「係・当番・委員会等の役割を果たす」の項目について8割以上の児童・生徒が肯定的に評価している。	生徒意識調査アンケートの結果、「規則を守る」は91%、「時間や約束を守る」は90%、「係・当番・委員会等の役割を果たす」は96%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	<今後の課題>生徒主体の活動によって、規範意識のさらなる向上を図る。 <改善策>生徒会本部や生活委員会、学年協議会、行事における実行委員会を中心とした取組みを支援する。生徒の主体的活動を増やすことで、生徒がきまりの意味を理解して、きまりを守ろうとする意識の醸成につなげる。
	「中学校生活のきまり」を中心にして、生活委員会による生徒の主体的活動も取り入れながら規範意識を育成する。	生活委員会や学年協議会が、適切な服装や時間を守ることを呼びかけた。また、行事における実行委員や各係を中心としたルールづくりや、生徒会によるきまりの改訂の提案も、規範意識の育成につながったと考えられる。	A	
③	オリンピック・パラリンピック教育で取り組んできたことに興味を持ち続けるとともに、ボランティア等に積極的に参加しようとする意識を高める。(アンケートで8割以上の肯定的評価が得られている。)	デフサッカーやブラインドサッカーの授業で、オリンピックやパラリンピックに興味をもつことできた。ボランティアに関しては、地域の祭りや運動会、花植え、整地ボランティアなど地域との関りをもつ場面がたくさんあった。来年度は参加率をもっと増やしていくことが課題である。 ボランティア活動への参加や意識の向上については、39%の肯定結果	C	<今後の課題>ボランティア活動への参加率を向上させる。 <改善策>今まで以上に事前のアナウンス(朝礼や学級でボランティアの意義を伝えながら)を生徒会役員会、ボランティア推進委員会等で計画的に行っていく。
	世界の多様性に目を向け、ブラインドサッカー体験などの体験やボランティア推進委員会を中心に様々なボランティア活動に取り組むことで思いやりやおもてなしの心を育む	社会的な課題については、各学年ごとの取組は実施しているが、学校全体としての取組とはなっていない。ボランティア活動についても様々な取組を実施しているが、なかなか参加率や意識向上につながっていない。	C	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力を育成し、体力向上を図る。 ①複数教員による指導体制でのチーム・ティーチングにより日々の体育授業を充実させる。 ②品川スポーツライアルやワンミニッツエクササイズなどを実践し、運動習慣づくりを啓発する。 ③健康の保持増進を図るため「基本的生活習慣の確率」「傷病への予防意識」「ストレスマネジメント能力」を向上させる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	全国体力運動能力調査の結果、全学年の各種目について、全国平均を上回る。	女子においてはボール投げ、男子においては長座体前屈など柔軟性を必要とする項目で全国平均を下回った。	B	体力調査に関して、女子は運動を調整する能力やすばやく動き出す力を球技種目などを通じて向上させる。男子は、体づくり運動や体操の場面で柔軟性を高める運動を取り入れて伸ばす。体育館や小体育館で実施できる種目に限られるが、運動の楽しさを実感できる授業を引き続き行う。
	テクニカルアドバイザーの有効活用、年間指導計画の工夫、体力調査への取り組み方の工夫により運動の楽しさを実感させる。	テクニカルアドバイザーを効果的に活用することができた。限られた環境の中で、実施できる種目を選択し、実施した。全学年で「体育の授業が楽しいと思わない」と回答した生徒は、2人のみだった。	B	
②	生徒アンケートで、「学校の授業以外で週に何日くらい運動していますか」という項目で8割以上の生徒が3～4日運動するよう習慣化する。	体育以外に週3日以上運動していると答えた生徒は、7学年60.4%、8学年54.1%、9学年42.5%であった。	B	体づくり運動や体育理論の分野と結び付け、自分に適した運動習慣を考えさせる時間を取り、運動の習慣化を意識づける。 品川スポーツライアルやワンミニッツエクササイズを授業で取り上げる頻度を上げていく。
	品川スポーツライアルやワンミニッツエクササイズの実施により運動への意識を高め、運動部以外でも日常的に運動に取り組む習慣を身につけさせる。	品川スポーツライアルやワンミニッツエクササイズの実施が、運動に取り組む習慣に結びついていることを実感できるまでには至らなかった。	B	
③	健康の保持増進への取り組みにより、食事・睡眠・心身の健康等についての生徒アンケートで、8割以上の生徒が肯定的に回答している。	体力テストのアンケート調査で朝食を8割以上の生徒が毎日摂取していると回答しているが、睡眠時間は8時間以上取っている生徒は3割弱である。自己肯定感も9割が肯定的に回答している。	B	<今後の課題> 睡眠を十分にとることの大切さを指導していく必要がある。また、虫歯の治療率が低いことや歯周疾患と診断される生徒が多くみられるので歯磨きや生活週間の見直しを指導していく必要性を感じる。 <改善策> 市民科や生徒会委員会活動の中に睡眠や歯科についての指導を取り入れたり、保健室の掲示物や資料の工夫をする。
	定期健康診断後の歯科・耳鼻科・眼科等治療率が向上したか、歯磨き・うがい・手洗いの定着、食事や睡眠・ストレスへの対処等基本的な生活習慣が身についている。	定期健康診断の治療率は学年が上がるに連れ、下がる傾向がある。特にむし歯の罹患率が東京都の平均を上回る。歯科指導を11月に実施し歯磨きの重要性を各学級で指導を行った。ストレスマネジメントを9年生で実施し、スキルを身に付けることができた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○日常的に未然防止、早期発見、早期対応のため、学校と教育委員会及び関係機関が連携して取り組む。 ①家庭、地域、関係機関との連携を強化し、社会総がかりでいじめ根絶に取り組む。 ②生徒の自治的、自発的活動を充実させ、自他の人権を大切にできる生徒を育成する。 ③いじめを相談しやすい信頼関係と小さなサインを見逃さない指導体制を築く。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	9割以上の生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という意識を持ち、いじめを許さない学校風土を築く。	生徒意識調査アンケートの結果、94%の生徒が肯定的な回答をしている。いじめ防止授業を始めとした様々な授業の取組み、日々の教員による指導により生徒の意識は向上している。	A	<今後の課題>生徒主体の活動によって、いじめを許さない学校風土を築く。 <改善策>引き続き、いじめ防止授業や様々な活動を通して、人権尊重の意識を高める。同時に、生徒会本部や学年協議会を中心とした取組みを支援する。生徒の主体的活動を増やすことで、いじめを学校全体の問題として正しい世論の形成を図る。
	生徒の主体的な取組み(学級目標、いじめ根絶バッジ、人権標語、ポスターづくりなど)を重視しながら、いじめを学校全体の問題として正しい世論を形成する。	誰もが安心・安全に学校生活が送れるよう、学級目標づくりや土曜授業のいじめ根絶バッジ着用、人権標語、人権ポスターの制作などの取組みを通じた啓発活動が定着している。また、年3回のいじめ防止授業や教員の研修、生徒の情報交換を密に行うことにより、未然防止、早期対応を図った。	A	
②	9割以上の生徒が「差別や偏見を許さず、互いに人権を認めあいながら関わる」という人権尊重意識を持つことができる。	学校生活、日常生活に関するアンケートでは、97%の生徒が差別や偏見を許さず、互いに人権を認め合い生活する必要があると思っているという結果になった。	A	<今後の課題>人権意識は持っているが、言動が伴わない生徒について引き続き指導していく必要がある。 <改善策>人権作文、標語、ポスター等、人権についての取組を実施しているが、指導者が学校生活全般を通して関連付け、意図的、計画的に指導していく。
	人権作文づくりと発表会、お肉の情報館見学、社会科や市民科学習を中心とした人権課題の学習などを通して理解を深め、人権意識を高める。	お肉の情報館見学は、情報館の職員による授業を実施した。人権教育については、市民科学習により計画的に実施することができている。	A	
③	年3回実施する生活アンケート(5月、10月、1月)で、いじめやいじめにつながる行為の発生が減少し、学校生活が楽しいと答える生徒を100%に近づける。	生徒意識調査アンケートの結果、97%の生徒が肯定的な回答をしている。生徒間のトラブルは比較的少なく、平穏に生活が送ることができている。	B	<今後の課題>生徒とのコミュニケーションに加えて、各種アンケートの結果を分析して指導に生かす。 <改善策>生徒の言動に注意を払い、各種アンケートの結果も合わせて対応する。また、各種アンケートから得られた情報を教員が共有し、組織的に対応することで、いじめの未然防止、早期対応につなげる。
	トラブルや悩みの解決につながるよう教育相談の機会を充実させる。(家庭訪問、三者面談、SC面談、校長面談など)いじめ対策委員会(毎週)で情報交換し、早期対応につなげる。	家庭訪問、三者面談、SC面談(7年生)、毎日の生活記録、各種アンケート(デイケン、いじめDアンケート、NiCoLi、学校風土調査)の結果を踏まえて、生徒とのコミュニケーションを工夫することで学校生活の充実を図った。また、いじめ対策委員会を実施し、生徒の情報交換を密に行い、トラブルの未然防止、早期対応を図った。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○コミュニティ・スクールとして地域と一体となった教育活動を充実させ、地域への誇りと愛着を育てる。 ①CSを中心とする浜川祭りを始め、地域ボランティア活動(町会との合同地域清掃、連合運動会、地区委員会主催行事など)への積極的参加を呼びかけ、体験的に学ばせる。 ②運動会、学習発表会、校外学習において生徒の実行委員会を中心にした主体的な取り組みを充実させる。また、生徒会活動を活発化させ、自らの生活を自らの手で向上させようとする自治意識を高める		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	地域と連携した教育活動を充実させ、ボランティア意識や自己肯定感を高め、地域への誇りや愛着を育成する。(アンケートで8割以上の肯定的な評価が得られている。)	龍馬フィールドワークや赤ちゃん触れ合い体験、食肉の教育を通して、地域への誇りや愛着をもつことができた。また、地域の祭りや運動会、花植え、整地ボランティアで地域の方々と触れ合う機会が多く、地域から見守られているという実感をもてた。地域への誇り、愛着の育成のアンケートの肯定率は60%	C	<今後の課題>地域を知る体験や地域の協力により実施できる行事も行っているが、地域への誇りや愛着を持つまでの意識の向上にはつながっていない。 <改善策>地域ボランティア活動へ積極的に参加するために、事前のアナウンス等をしっかり行う。
	地域ボランティア、浜川まつり、龍馬フィールドワーク、職場体験などの地域との連携による教育活動を活発化させる。	地域や保護者の協力体制は確立されているが、生徒の参加意識や休日の参加率については、なかなか高められない。	C	
②	学校行事や生徒会、部活動などの教育活動を通じて達成感、充実感、帰属意識が高められたか。(アンケートで8割以上の肯定的評価が得られている。)	生徒意識調査アンケートの結果、87%の生徒が肯定的な回答をしている。成果指標は達成しているが、昨年度の94%から減少している。今年度の8、9年生においては、1学期に行事がなく、2学期の短期間に大きな行事が集中したことで、1つ1つの行事の達成感や充実感が薄まったのではないかと思われる。	B	<今後の課題>計画的に行事を配置する。また、今後もそれぞれの活動において生徒一人ひとりが主役となるような取り組みを考え実施する。 <改善策>年間行事予定を策定を工夫する。また、引き続き、生徒が中心となり、自ら活動を企画・運営していけるように教員が意図的・計画的に指導していく。
	生徒が主体的に取り組めるよう様々な活躍の場が用意され、学校行事、生徒会活動、部活動などに生き生きと取り組んでいる。	運動会や各学年の行事など、様々な活動において、生徒実行委員会を組織し、生徒が行事の成功のため主体的に考え行動する場面を設定した。委員会活動や部活動、ボランティア活動では、興味・感心や得意を生かして生徒が活動していた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成